



# 安川電機 (6506)

## 2012年度4-6月期業績概要

2012年3月21日～2012年6月20日

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

# 目次

---

## 1. 2012年度4-6月期決算について

- ・ 2012年度4-6月期連結決算のポイント
- ・ 2012年度4-6月期連結セグメント別業績
- ・ 営業利益増減要因分析（2011年度4-6月期⇒2012年度4-6月期）
- ・ 事業セグメント別売上高構成比（2011年度4-6月期⇒2012年度4-6月期）
- ・ 仕向先別売上高（2011年度4-6月期⇒2012年度4-6月期）
- ・ 仕向先別売上高構成比（2011年度4-6月期⇒2012年度4-6月期）

## 2. 2012年度上期見通しについて

- ・ 2012年度上期連結業績見通しのポイント
- ・ 営業利益増減要因分析（2011年度上期⇒2012年度上期予想）
- ・ 2012年度における取り組み

## 3. 参考資料

- ・ 設備投資、研究開発費、為替状況（2010年度～2012年度計画・連結）
- ・ 連結売上高・営業利益推移（2000年度～2012年度予想）
- ・ B/S構造の推移（連結）
- ・ 配当金の推移（2006年度～2012年度予想）
- ・ 四半期連結売上高推移（セグメント別、仕向先別）
- ・ 主要生産拠点（グローバル事業展開を支える世界最強のネットワーク）
- ・ アジア地域における取り組み

# セグメント別事業概要

## モーションコントロール:(M)

ACサーボは、工作機械、ロボット、食品・包装機械、印刷機械等に組み込まれています。半導体や電子部品装置に使われるほか、プレス関連、射出成形機等へも用途が拡大しています。

インバータは、産業機械はもちろん、業務用エアコン・冷蔵庫・洗濯機等や、エレベータ、クレーンといった輸送機器にも使われています。無駄な電力消費を抑え、省エネに貢献する機器として脚光を浴びています。当社は、インバータで培った電力変換技術を生かし、自然エネルギーの有効活用や電気自動車の駆動システム開発に取り組んでいます。



ACサーボ



汎用インバータ



太陽光発電用  
パワーコンディショナ



EV用モータドライブ  
システム

## ロボット:(R)

ロボットは、自動車、電機関連市場を中心に、溶接、塗装、ハンドリング、搬送等の各種工程の自動化に貢献しています。

また、半導体市場ではクリーンロボット、真空ロボットが使われるほか、液晶市場では、ガラス基板搬送にロボットが使われます。

近年は、食品・薬品・化粧品(3品)業界におけるロボットを活用した自動化にも注力しています。



レーザー切断・溶接対応  
高精度軌跡ロボット



双腕ロボットによる  
製品組立



パラレルリンクロボット

## システムエンジニアリング:(S)

システムエンジニアリングは、製鉄所や水処理(上下水)等、皆様の生活に欠かせないプラントシステム設備の安定稼働に役立っています。

また、ポンプ、ブロワなどの風水力機械設備の省エネ対策として、高圧インバータの需要も拡大しています。

2010年からは、高い発電効率を実現する機能や構造が要求される大形風力発電用途向けに、発電機とコンバータを市場投入しています。



上下水道システム



連続鋳造設備



大形風力発電用  
発電機とコンバータ

## 情報:(情報)

情報事業では、当社グループ会社のうち、情報事業関連の安川情報システム(株)および(株)ワイ・イー・データの2社が、ソフトウェア開発、コンピュータ周辺機器事業等を行っております。



ハイパワーレーザー対応スキャナヘッド



NetSHAKER ProxyBox

---

# 1. 2012年度4-6月期決算について

## 2012年度4-6月期連結決算のポイント

半導体・電子部品、中国市場の回復および堅調な自動車業界などにより一定水準の売上高・利益を確保。但し、前年同期比では震災時の先行受注および経営環境の変化により、減収・減益

	<u>12年度</u> <u>4-6月期</u>	11年度 4-6月期	<u>前年同期比</u>	
売上高	<u>725億円</u>	764億円	<u>▲38億円</u>	<u>▲5.1%</u>
営業利益	<u>21億円</u>	47億円	<u>▲25億円</u>	<u>▲53.8%</u>
経常利益	<u>19億円</u>	47億円	<u>▲27億円</u>	<u>▲58.0%</u>
四半期純利益	<u>8億円</u>	37億円	<u>▲28億円</u>	<u>▲76.2%</u>

# 2012年度4-6月期連結セグメント別業績①

(R)ロボットは引き続き堅調に推移したが、(M)モーションコントロールの業績低迷により前年同期比減収減益

(単位:億円、%)

	12/4-6月期		11/4-6月期		前年同期比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	725		764		▲38	▲5.1%
(M) モーションコントロール	352		432		▲80	▲18.5%
(R) ロボット	269		220		+49	+22.4%
(S) システムエンジニアリング	66		65		+0	+0.5%
情報	22		24		▲1	▲6.8%
営業利益	21	3.0%	47	6.2%	▲25	▲53.8%
(M) モーションコントロール	8	2.3%	39	9.1%	▲31	▲79.5%
(R) ロボット	18	6.7%	10	4.9%	+7	70.1%
(S) システムエンジニアリング	▲1	▲1.6%	▲1	▲2.6%	+0	-
情報	▲3	▲16.0%	▲2	▲9.2%	▲1	-
経常利益	19	2.8%	47	6.2%	▲27	▲58.0%
四半期純利益	8	1.2%	37	4.9%	▲28	▲76.2%

## 2012年度4-6月期連結セグメント別業績②

(M): 中国市場の減速、および半導体・液晶・電子部品の低迷の影響を受け、前年同期比減収。また、円高定着、マグネット価格高騰も加わり前年同期比減益。一方、中国市場および半導体・電子部品業界からの受注は回復傾向にある。

(R): 一般産業用を中心に前年同期比増収増益。海外は自動車向けを中心に、総じて堅調に推移。国内は、自動車・非自動車向けとも順調に回復。一方、液晶用売上は前年同期比大幅な減少。

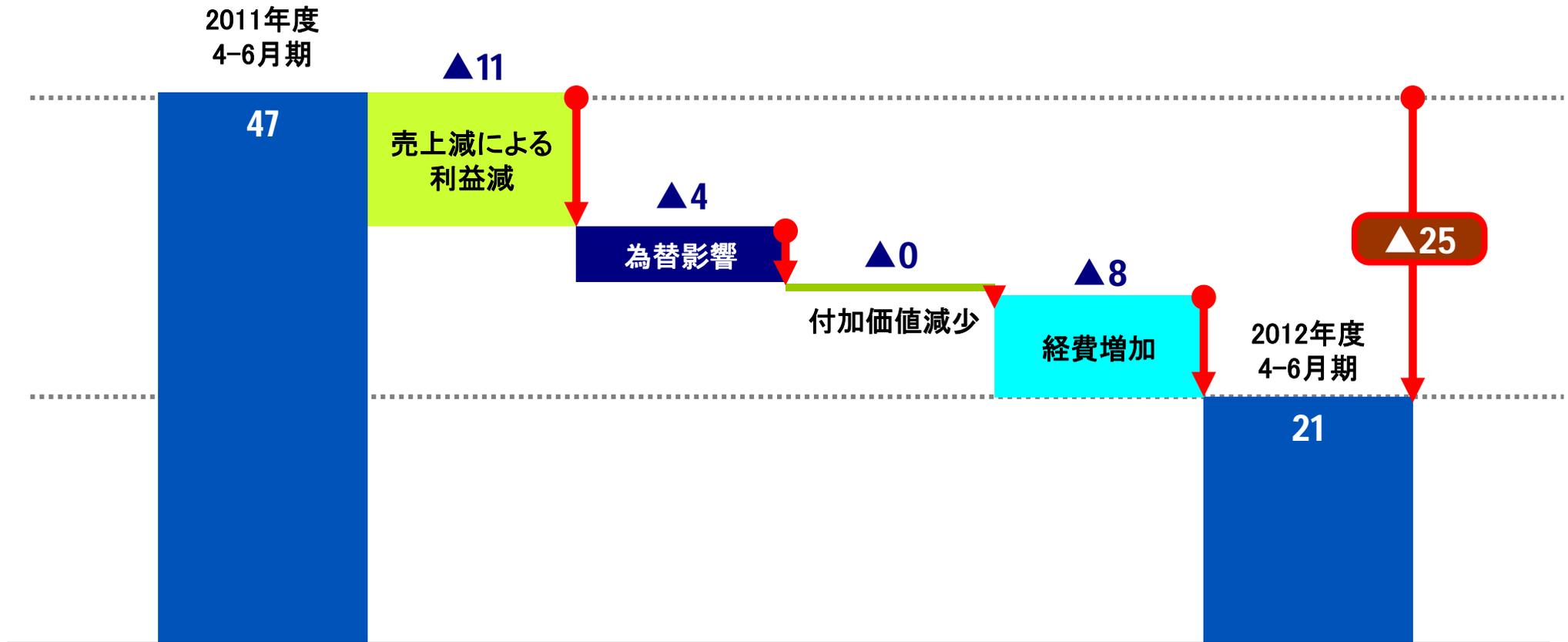
(S): ほぼ前年並みの売上高水準を確保。水処理関連投資は西日本地区を中心に依然として厳しい。経費削減やコストダウンにより損失を最小限に止めた。

(情報): 情報関連投資が引き続き低迷しており、前年同期比若干の減収。徹底した原価低減活動は進めているものの、営業損失は前年同期比拡大。

(注) 表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

# 営業利益増減要因分析(2011年度4-6月期 ⇒ 2012年度4-6月期)

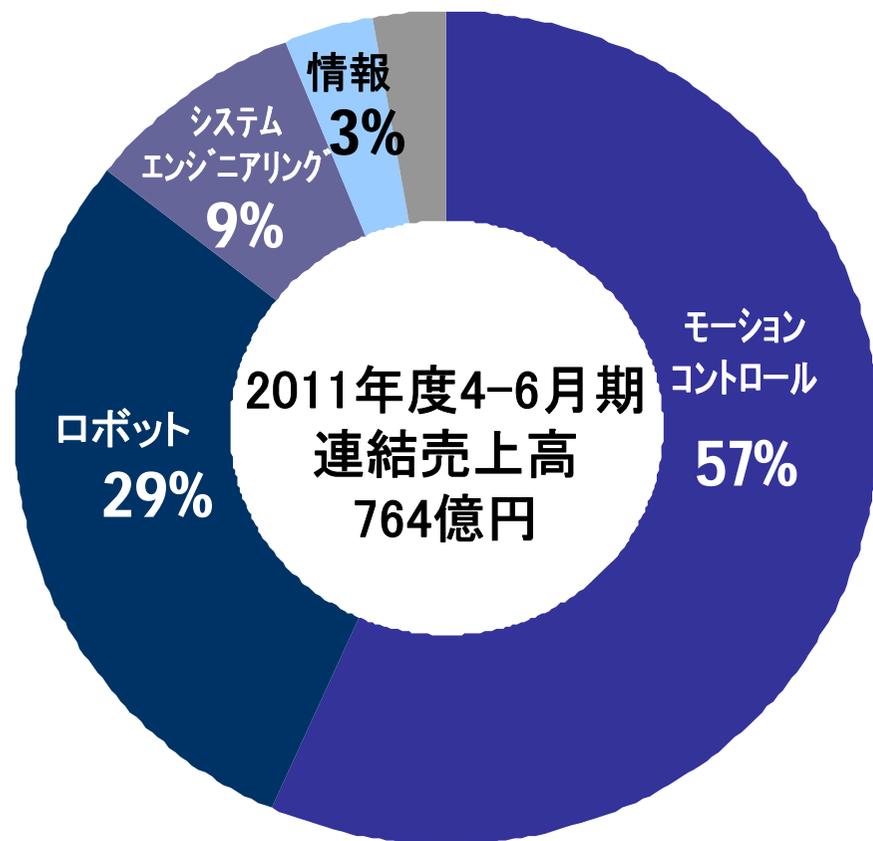
(単位:億円)



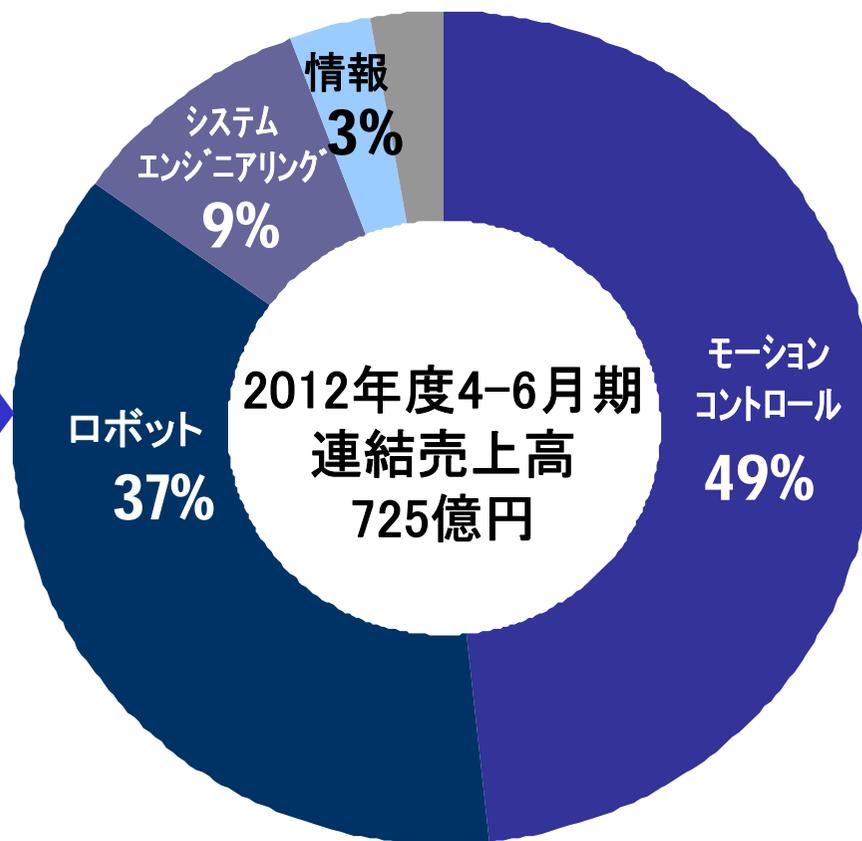
# 事業セグメント別売上高構成比(2011年度4-6月期⇒2012年度4-6月期)

## (R)ロボットが大きく伸長し、構成比が拡大

11年度4-6月期



12年度4-6月期



## 仕向先別売上高(2011年度4-6月期⇒2012年度4-6月期)

### 米・中国向けの売上が拡大したものの、日本・欧州・その他アジアで前年同期比減収

(単位: 億円、%)

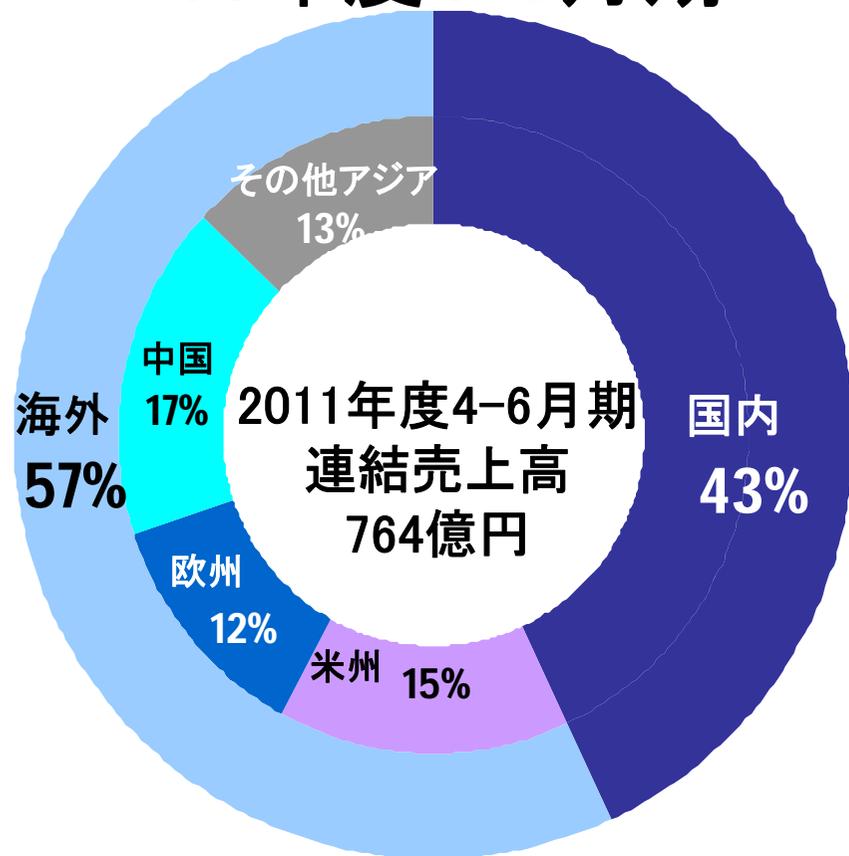
	12/4-6月期	11/4-6月期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	725	764	▲38	▲5.1%
国内	301	327	▲25	▲7.9%
海外	424	437	▲12	▲3.0%
米州	116	111	+5	+4.6%
欧州	79	89	▲9	▲11.0%
中国	139	133	+6	+4.7%
その他アジア	85	99	▲13	▲13.6%

(注) 内訳には「その他地域(オーストラリア等)」の記載は割愛している。

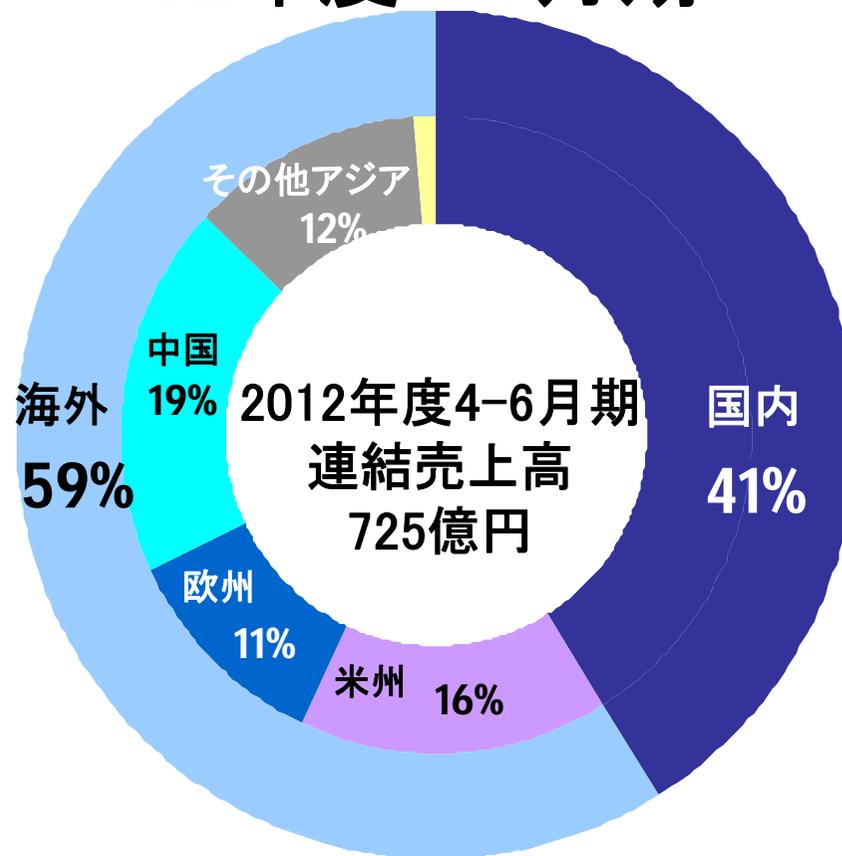
## 仕向先別売上高構成比(11年度4-6月期⇒12年度4-6月期)

連結対象子会社の拡大もあり、海外構成比(59%)、  
中国(19%)とも過去最高を記録

### 11年度4-6月期



### 12年度4-6月期



---

## 2. 2012年度上期見通しについて

## 2012年度上期連結業績見通しのポイント

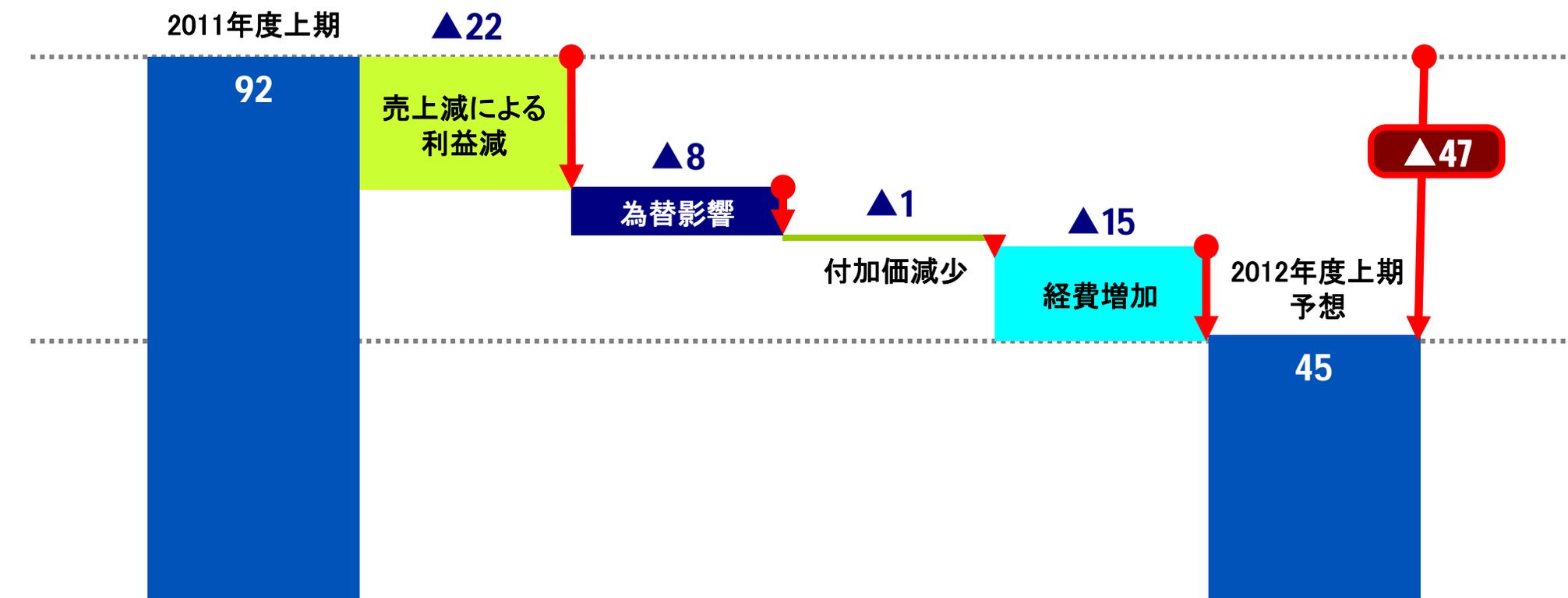
市場の回復を捉え、受注を確保するとともに、収益性の改善や経費・投資の効率的運営により、年初予想を上方修正。  
但し、通期連結業績予想は、年初予想数値を据え置く。

	12/上期	12/上期	予想比 増減額	11/上期	前年同期比	
	今回予想	前回予想			増減額	増減率
売上高	<u>1,500億円</u>	1,450億円	+50億円	1,580億円	<u>▲80億円</u>	<u>▲5.1%</u>
営業利益	<u>45億円</u>	30億円	+15億円	92億円	<u>▲47億円</u>	<u>▲51.4%</u>
経常利益	<u>45億円</u>	30億円	+15億円	92億円	<u>▲48億円</u>	<u>▲51.6%</u>
四半期純利益	<u>25億円</u>	15億円	+10億円	64億円	<u>▲39億円</u>	<u>▲61.5%</u>

(注) 12/上期 前回予想は、2012年4月20日時点発表の数値

# 営業利益増減要因分析(2011年度上期⇒2012年度上期予想)

(単位:億円)



# 2012年度における取り組み①

---

## 1) 量の確保

好調な市場、回復する市場において受注・売上を拡大する

・半導体・電子部品などエレクトロニクス関連の市場回復による受注拡大

・新規市場・分野への積極的な開拓

⇒ パソコン・EV・バイオメディカル用ロボット受注獲得

・米国、中国、日本およびアジア・新興国を中心に市場の深耕

⇒ ブラジルにおける事業所統合による効率化

※詳細は、下記当社ホームページをご参照下さい。

<http://www.yaskawa.co.jp/php/newsrelease/contents.php?id=234&year=2012&>

・販売力・生産力・開発力の継続的な改善・強化

# 2012年度における取り組み②

---

## 2) コア事業の利益率向上

- ・円高対策の加速(中国生産・海外調達の拡大)
  - ⇒ 瀋陽第2工場竣工(2012年7月)
- ・マグネット価格高騰対策の加速
  - ⇒ 価格転嫁、省レアアース対応製品の開発・市場投入
- ・高付加価値化の取り組み強化(価格面、コストダウン等)
- ・経費構造の見直し
- ・リソースの選択と集中(コア事業の運営効率化⇒新事業・新領域へのシフト)

---

# 参考資料

# 設備投資、研究開発費、為替状況(2010年度～2012年度計画・連結)

## ◆設備投資の状況

(単位:億円)

	2010年度	2011年度	2012年度計画
設備投資額	66.6	99.1	130.0
減価償却費	70.6	76.1	85.0

## ◆研究開発投資の状況

(単位:億円)

	2010年度	2011年度	2012年度計画
研究開発投資	97.2	103.9	110.0

## ◆為替状況

	2010年度			2011年度			2012年度想定		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
対 米ドル	89.91円	83.13円	86.52円	80.56円	77.48円	79.02円	80.63円	80.00円	80.31円
対 ユーロ	116.03円	111.77円	113.90円	115.07円	103.91円	109.49円	103.04円	100.00円	101.52円

(注)期中平均レート

# 連結売上高・営業利益推移(2000年度～2012年度予想)



# B/S構造の推移(連結)

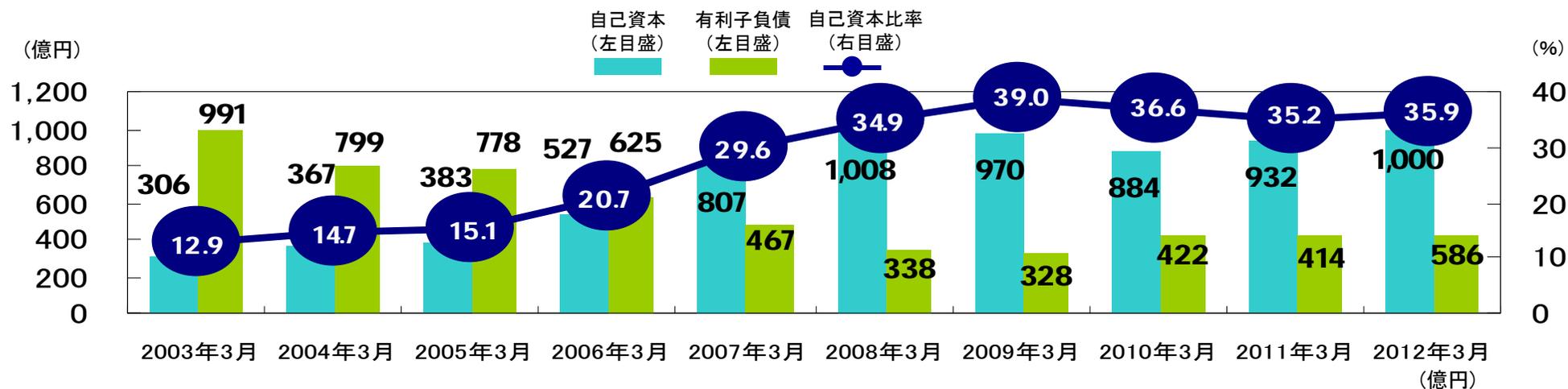
## 2011年3月期

- 自己資本比率 35.2%
- 自己資本 932億円
- 有利子負債 414億円
- D/Eレシオ 0.44  
(ネットD/Eレシオ) 0.32
- 棚卸資産 580億円  
(回転月数) (2.3ヵ月)

## 2012年3月期

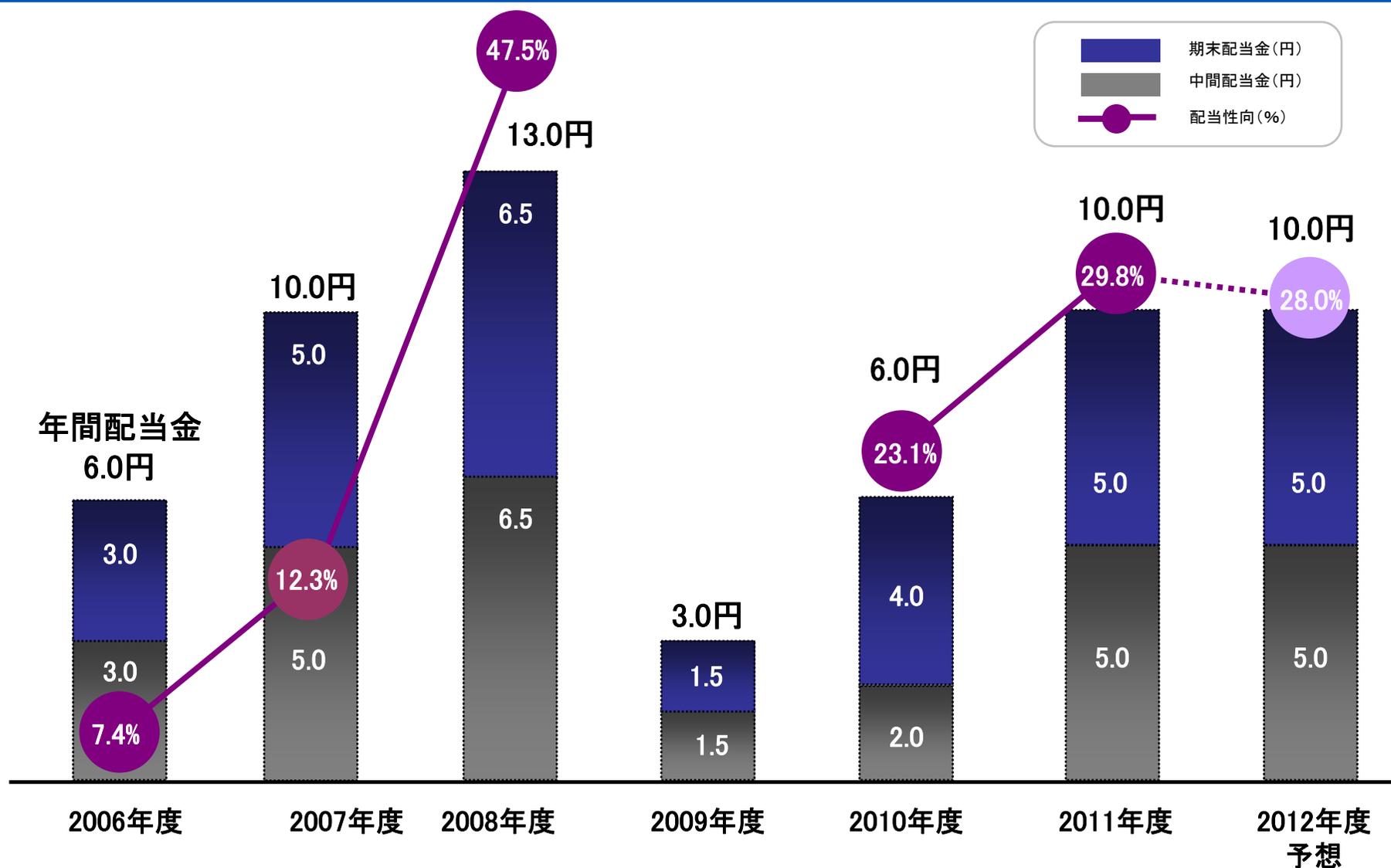
- 自己資本比率 35.9%
- 自己資本 1,000億円
- 有利子負債 586億円
- D/Eレシオ 0.59  
(ネットD/Eレシオ) 0.39
- 棚卸資産 638億円  
(回転月数) (2.5ヵ月)

※棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用



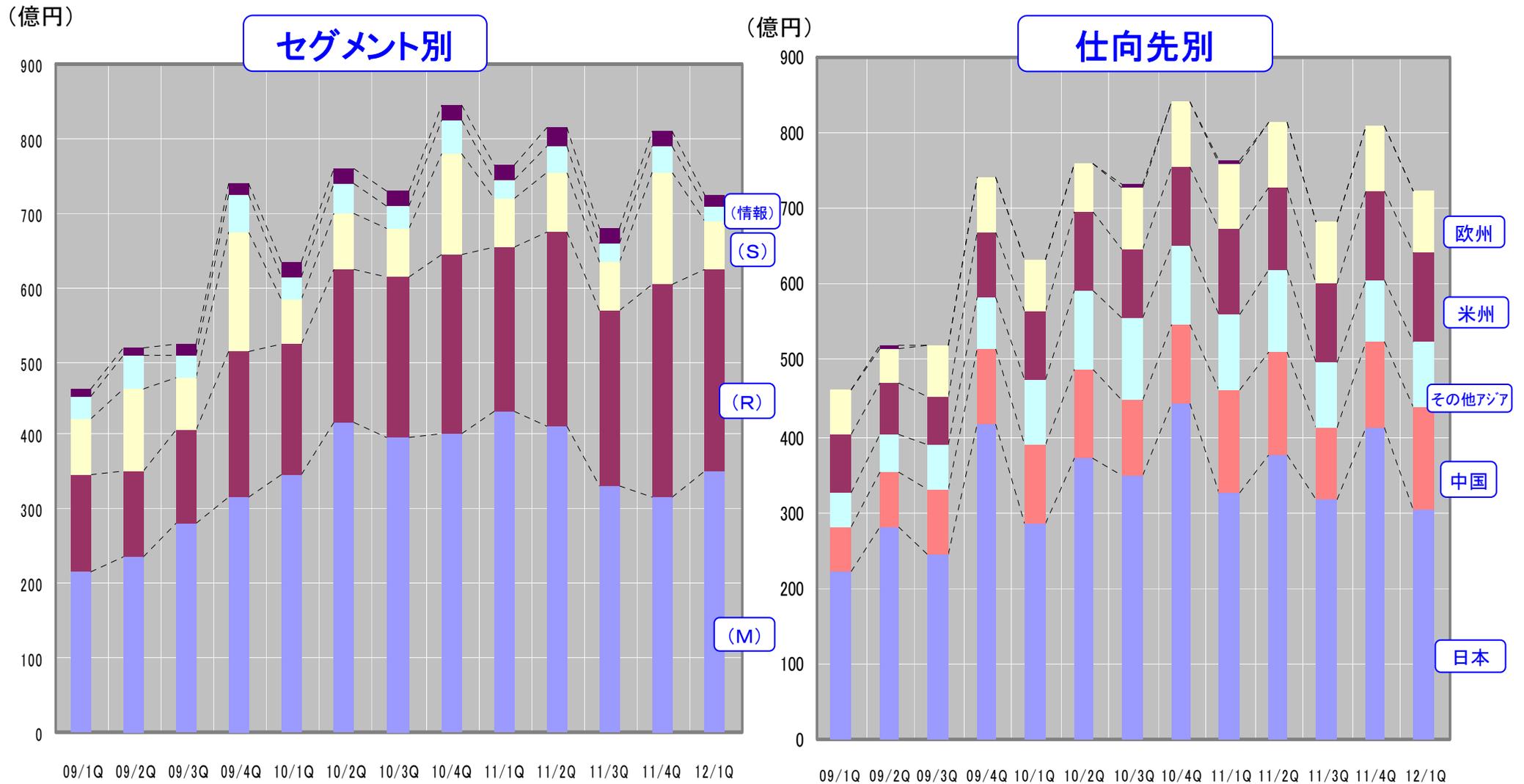
	2003年3月	2004年3月	2005年3月	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月	2010年3月	2011年3月	2012年3月
営業CF	84	185	57	187	149	176	124	40	24	63
投資CF	▲19	11	▲22	97	▲61	▲99	▲106	▲64	▲67	▲118
フリーCF	64	196	35	89	88	77	17	▲24	▲42	▲54

# 配当金の推移(2006年度～2012年度予想)



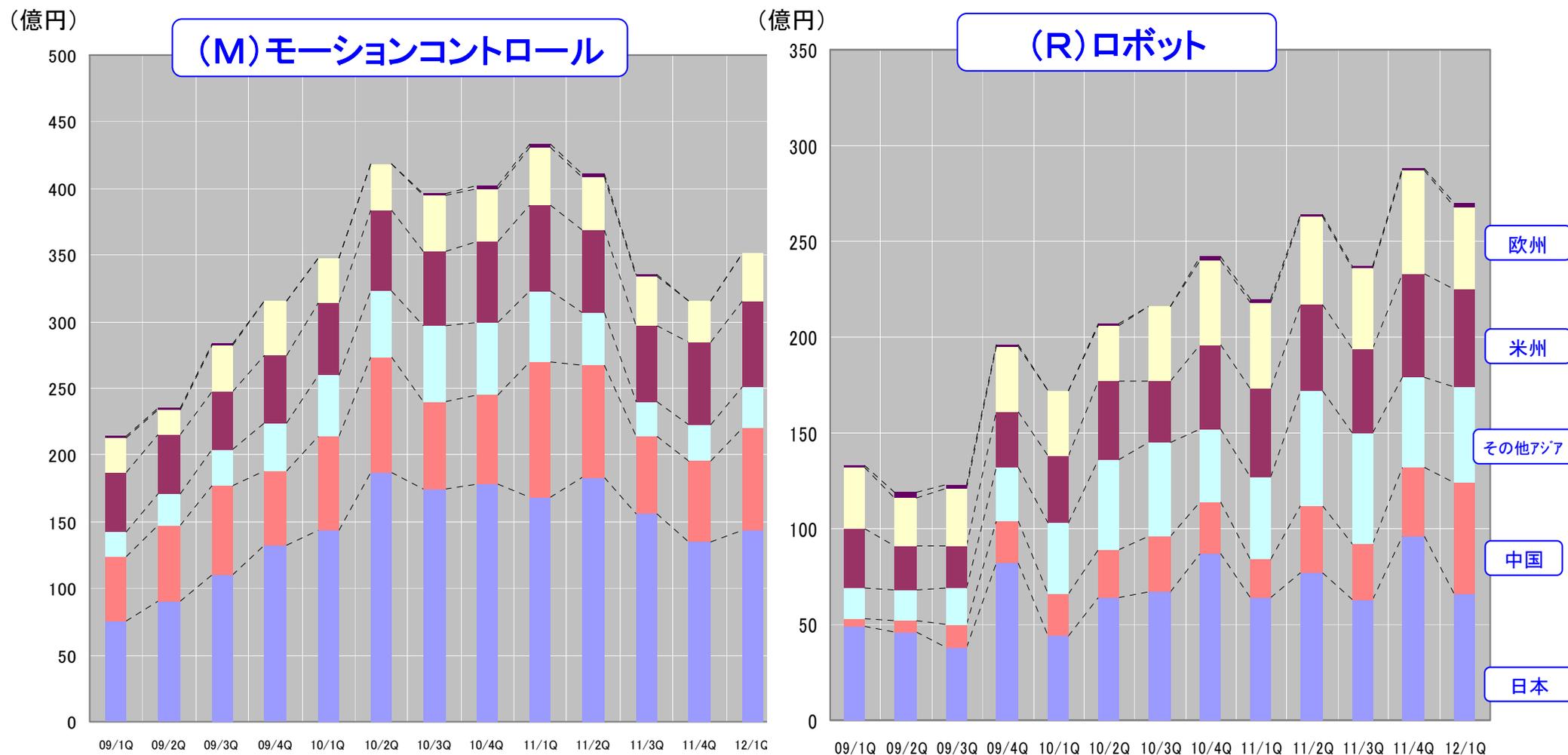
※2009年度は当期純損失のため、配当性向は算出していない。

# 四半期連結売上高推移(セグメント別・仕向先別)



(注)表記:(M)=モーションコントロール (R)=ロボット (S)=システムエンジニアリング

# (M)(R)四半期連結売上高推移(仕向先別)



(注)表記:(M)=モーションコントロール (R)=ロボット

# 主要生産拠点 (グローバル事業展開を支える世界最強のネットワーク)



# アジア地域における取り組み

